

甘藷新品種「アリアケイモ」について

坂井健吉・白坂 進・丸峯正吉・広崎昭太・井手義人

(九州農業試験場)

1. ま え が き

九州甘藷作農家の経営の安定は、澱粉原料用甘藷の需給安定と飼料用甘藷の需要拡大にある。原料用甘藷の需要安定は澱粉生産費を引下げて澱粉の二次加工業を発展させることが第一である。澱粉生産費の引下げは、澱粉製造技術の向上と原料甘藷の澱粉歩留りの向上にあるが、現在の製造技術は限界にきているとされている。したがって生産費の引下げは原料甘藷の澱粉歩留りの向上に負う所が大きく、高澱粉品種の育成が強く要望される所以である。従来南九州には収量、澱粉歩留りともに極めて優秀な農林2号があり、よく原料用甘藷として普及されて来たが、北九州には適品種がなく、南九州の農林2号に匹敵する品種が強く要望された。本品種はこの目的のために育成されたもので、昭和37年度より、長崎、熊本両県において奨励品種に採用されることになり、同年5月甘藷農林26号として登録され、アリアケイモという品種名で、普及されるに至った。ここにその育成経過と特性の概要を記し参考に供する。

2. 来歴および育成経過

アリアケイモは昭和29年農林省九州農業試験場指宿試験地において護国藷×シロセンガンの組合せによる種子を翌30年熊本県農業試験場甘藷隔離圃場において実生し、鹿系9~827なる系統番号を附して選抜、以降九州農業試験場作物第二部に移し選抜を重ね、昭和35年「九州39号」なる系統名で関係各県に配布した。その結果成績優秀だったので37年5月新品種になった。

3. 特 性 概 要

萌芽性は良好である。蔓は細いが、節節性で草勢は強

い。蔓重は普通栽培において農林2号程度である。藷は黄白色で肉色は淡黄、形は短紡錘又は紡錘形で、条溝はないが、粒揃いがやや悪く外観は中の上である。蒸藷の肉質は粉で食味は中の上である。藷収量は各種栽培条件下で農林2号より1~2割多く、澱粉歩留も2~3%高い。とくに多肥栽培において増収し、澱粉歩留りが比較的低下しない特徴をもっている。黒斑病、ネコブ線虫、ネグサレ線虫抵抗性はいずれも中である。配布先における概評は表のとおりである。

4. 適地ならびに栽培上の注意

本品種は普通栽培において農林2号に優る収量、澱粉歩留りを有するが、多肥栽培においてはさらに優れた成績を示す。晩植栽培にも適し各種栽培条件に対する適応性が高く、土壌適応性も高いので作り易い品種である。しかしながら、南九州では澱粉歩留りは高いが収量は余り上らない。したがって長崎、熊本を中心とした有明海沿岸の畑地帯に適する。

配布先における成績概要

県 名	収 量	切干歩合 (澱粉歩留)	概 評
高 知	109	40.1	○
福 岡	104	37.5	△
佐 賀	95	(22.7)	△
長 崎	114	(22.6)	◎
熊 本	103	36.7	◎
大 分	106	36.2	○
大 野 分 野	120	29.4	△
宮 崎	88	37.2	△
都 城 分 都	101	(23.8)	△
鹿 見 鹿	117	36.6	○
鹿 屋 支 鹿	105	41.2	△

註：収量は対標準比率、◎奨励品、○有望、△再検標準品種 高知—護国 佐賀—ベニセンガン その他農林2号